



M-通信

むさしの「む」 vol.09

11/23

夢作志感謝祭開催



夢作志感謝祭を終えて

「夢作志感謝祭」では、保護者の皆さんより心のこもった手作り昼食をご提供いただき、温かな笑顔のあふれる時間となりました。また、ララカフェ様からは美味しいカレーの差し入れをいただき、会場中に嬉しい香りがひろがりました。

ご協力いただいた皆さんに、改めて感謝申し上げます。

今年の感謝祭は、子どもたち自身が企画し、話し合い、力を合わせて創り上げた文化祭。ステージ発表や展示、カフェ運営など、それぞれの「やってみたい」が形になり、成長と挑戦の一日となりました。

保護者・地域の皆さんに見守られながら、自信と達成感を胸に刻む機会となったことが何よりの収穫です。



LaLaCafe HP

LaLaCafe LaLaCafe LaLaCafe LaLaCafe
LaLaCafe LaLaCafe LaLaCafe LaLaCafe



LaLaCafe LaLaCafe LaLaCafe LaLaCafe



保護者の皆さん手作り昼食＆夢作志CAFE『日常茶飯時』



あったか豚汁から甘いパンケーキ まで、心づくしのごちそう

昼食は、豚汁・焼きそば・おにぎり・おもちなど心のこもった手料理が並び、温かい味に笑顔が広がりました。

高校生のカフェでは、メイド姿でおもてなし。手作りパンケーキ＆スコーン、ドリンクを提供し大繁盛！甘い香りと笑顔に包まれました。



夢作志
感謝祭

夢に挑む子どもたち



お化け屋敷＆ゲームコーナー



遊んで、驚いて、大盛り上がり！ 夢作志アミューズメント

お客様の笑顔と歓声があふれ、担当の生徒が丁寧にルール説明を行い盛り上げた、子どもの発想と工夫が光るゲームコーナー。暗闇と仕掛けでドキドキ体験！子どもたちの演出が来場者を驚かせたお化け屋敷は、大人気で行列ができました。



展示会場：益子陶芸・カビ研究・蝶の標本 など



日々の学びが形に。じっくり 味わう展示空間

日頃の学習成果、作品、研究内容などを自分たちでレイアウトし、来場者に見やすい展示を工夫。説明文づくりや呼び込みも、生徒の手で行いました。

さまでまな発表



舞台に立つと、みんなが主役。 音・笑い・学びのショータイム！



夢作志感謝祭は『家族と地域の皆さんへの感謝を、生徒の姿を通して伝える日』として毎年開催しています。

沖縄課外授業

2025.10.13
～
10.17
4泊5日

と温たまし今
なにかにた回
つさの心保の
てが心よ護課
い、にり者外
く今刻感の授
こ後ま謝皆業
とのれ申さに
を学たしまご
願び沖上、協
つや繩げ関力
て人のま係い
い生海す者た
まのと。のだ
す指人生皆き
。針の徒さま

普段の教室では得られない体験が、生徒一人ひとりの学びと成長につながった5日間となりました。



10/13 平和記念公園&ひめゆりの塔



平和祈念公園とひめゆりの塔を巡り、ジャンボタクシーの運転手さんから現地の歴史を詳しく教えていただきました。資料を読むだけでは得られない「語り」で学ぶ時間となり、生徒たちの表情も自然と引き締まる様子が見られました。



10/14 石垣島：川平湾グラスボード

ラスボートに乗って海の中を観察。透きとおる水の下に広がるサンゴや魚たちに、思わず夢中で見入っていました。



10/15 竹富島：コンドイベーチ&星砂浜

竹富島コンドイベーチでのんびり✿
海に入り、星砂も発見できて大満足のひととき✿



10/16 美ら海水族館&アメリカンビレッジ&首里城

美ら海水族館 ← アメリカンビレッジ → 首里城へ
海も歴史も街歩きも満喫✿
沖縄を全力で楽しんできました✿



夢作志課外活動

9/26 陶芸教室in益子

伝統ある益子焼の工房にお世話になり、ろくろを使った陶芸体験に挑戦。初めてろくろに向かう生徒もいましたが、土のやわらかな感触に戸惑いながらも、講師の方に教わり少しずつ形を整え、自分だけの作品へと仕上げていきました。



11/28 リンゴ狩りinファミールしばた

毎年お世話になっている石那田の「ファミールしばたリンゴ園」へリンゴ狩りに行きました。今年のリンゴも蜜がたっぷり！笑顔あふれる秋のひとときとなりました。



【映画解説】



『国宝』

この映画を見て歌舞伎の世界に少し触れられたような気がする。歌舞伎で舞う姿はよくテレビなどで見る機会はあるが、しみじみと見て理解することはあまりなかった気がする。

2025年6月に公開され、原作は吉田修一氏である。歌舞伎を舞台に主人公「立花喜久雄」が人間国宝に至るまでの人生を描いる。いくつか思いつくことを考えて見ると、①歌舞伎の伝統、②個人の苦悩と成長、③主人公喜久雄が探し求めていたもの、④映画「国宝」のテーマ、どれをとっても意味深いものだ。

最後のシーンがこのテーマを語っている気がする。歌舞伎の家に生まれた俊介と任侠の血が流れる喜久雄の生きざまは、この映画の柱となるものだ。俊介は一度歌舞伎の世界を離れたが、すぐに第一線に返り咲いた。逆に喜久雄は血や才能よりも「芸に対する情熱」で芸を極ていった。この二人がお互いを気づかい、足りない点を補って完成させたのが「道成寺」である。二人の無敵状態のシーンだ。

最後のシーンの演目は「鶯娘」(さぎむすめ)だ。白無垢姿や、雪に見立てた紙吹雪。雪の白と血統である。「血は水よりも濃し」昔からうまく語り継がれている。喜久雄が探し求めていたものは、幼いころ任侠道に生きる父親が赤い血を流しながら死んでいった姿を忘れられず、無意識に自分の生きざまに反映させていた気がする。「鶯娘」ではいろいろな衣装が飛び交い、恨みや、様々な情念を感じられる舞の姿は必見だ。紙吹の雪が舞うラストシーンには、この映画のすべてが描かれている。

歌舞伎の世界がこれほどに、深く意味深いものかと感動を覚えた。生で歌舞伎を見たくなったのは、私だけだろうか。役者の吉沢亮さん、横浜流星さんの演技もこの映画の配役にぴったりと思った。アカデミー賞などをとるようになつたら、後世に語り継がれるくらいの映画になりそうだ。これほど意味深い、いい映画だった。

by Boss

《M-通信についてお問合せ》

夢作志学院 広報課 担当・小林有美子

Tel: 028 - 610 - 6341 Mail: gakuin@k-musashi.jp

=寄付金のお願い=

夢作志の教育活動へ協力ください。（詳細は夢作志HPを御覧ください。）

